

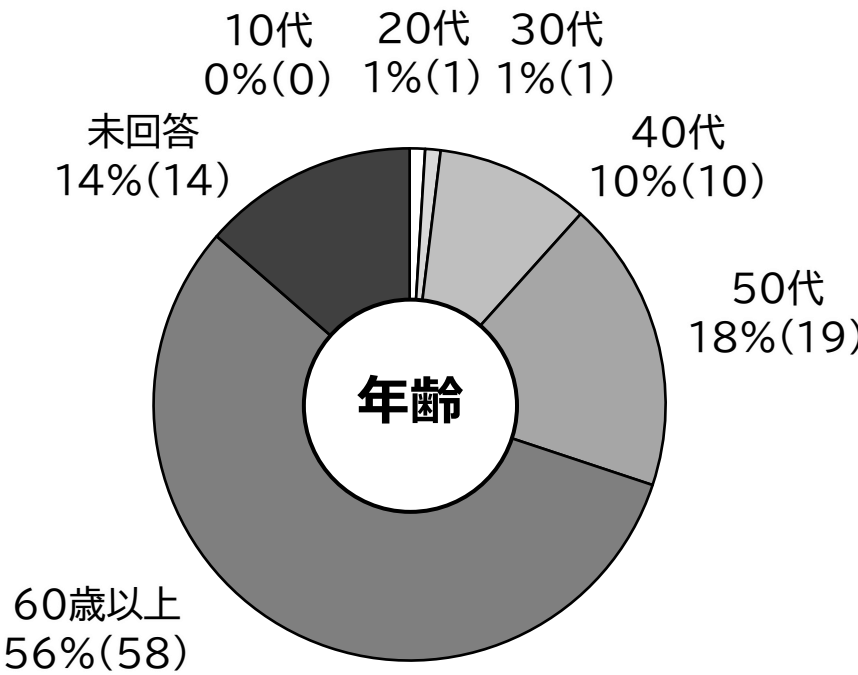
素案説明会の実施結果について

● 素案説明会の実施概要

○対象：在住、在勤、在学の方

○周知方法等：広報紙（10月1日号）、区ホームページ、区メールマガジン、SNS（X、Facebook等）、せたがやPay、一般財団法人せたがやトラストまちづくりのメールマガジンなど。

○開催日、会場、参加人数



● 参加者属性 n=103

地 域	開催日【令和6年】	会 場	参加人数
世田谷	11月16日（土）	世田谷区民会館 地下1階集会室A	21人
北 沢	11月23日（土・祝）	北沢タウンホール 12階スカイサロン	22人
玉 川	11月23日（土・祝）	玉川区民会館 第4・5集会室	8人
砧	11月23日（土・祝）	成城ホール 4階集会室C・D	24人
烏 山	11月16日（土）	烏山区民会館 集会室	28人
合計			103人

開催概要

テーマ別の方針に関する意見

「テーマⅣ 誰もが快適に移動できるまちをつくる」について、車いす利用者、視覚障がい者、外国人も増えていることを考慮し、移動手段だけでなく表示や点字ブロックなどの充実を求める意見などがあった。

アクションエリアの方針に関する意見

「駒沢一丁目1番地区」について、記載内容の具体性に関する意見などがあった。

その他の意見

三軒茶屋駅周辺での社会実験に関する意見、計画の進捗の公開や区民参加に関する意見などがあった。



説明会の主なご意見と区の回答

ご意見（要旨）	区の回答
アクションエリアについて、「駒沢一丁目1番地区」の内容が具体的に書かれている。地域整備方針で示す内容は、各論ではなく、大枠であると理解しているにもかかわらず、書いてある内容は「高度化を目指す」「歴史的資産」などが記載されている。色々反論している中で書かれているのはおかしい。	当該地区は旧林愛作邸という文化財として保存する必要がある建物があり、それを中心に検討を始めているという状況であるため、今後10年間にわたり優先的に取り組む場所として位置付けている。記載させて頂いた内容は、周辺住民を対象とした説明会でご報告させて頂いた、区でまとめた「土地利用の基本的な考え方」を記載させて頂いている。アクションエリアに定めたからといって高度地区や用途地域の変更といったものが決定するものではない。今後、地域の方々にもしっかりと説明しながら丁寧に進めていく。
弦巻地区についてはほとんど記載がない。改定することが無いので記載がないのか、住んでいる住民が色々な意見を出さない、無関心の人間が多いのか。そのことを確認したい。	- 今後10年間で優先的に取り組むべき場所をアクションエリアとして示している。それ以外の場所についても、いずれは課題をとらえた取組みを検討していく。 - 住民の発意による街づくりもある。街づくりをやりたいという機運があれば、街づくりの専門家を派遣するなど支援をしていく。
都市軸の主要生活交通軸に、茶沢通り（補助210号線）がある。歩く人も必要、車も必要、緊急車両の通行も必要なのに、日曜日の午後は歩行者天国になっていて、緊急車両が通れない状況になっている。説明資料では、歩行者天国で芝生をひいてテーブルを出して道路の真ん中で飲食をする様子が描いてある。これはまずい。このような写真を載せたら区が推進していることになる。	- 都市軸の主要生活交通軸という位置づけについては、歩行者天国時も緊急車両が支障なく通るなどしっかり整備をしていかなければいけないと認識している。 - 三軒茶屋では「三茶のミライ（三軒茶屋駅周辺まちづくり基本計画）」を策定し進めている。現在の三軒茶屋は、滞在性や回遊性など、様々な課題があり、留まれる場所、座れる場所を公共空間で創出できないか、社会実験を行っている。社会実験の際には、緊急車両の通行のためのスペースを設け、交通や安全性を担保した形で今後も進めていく。
「誰もが快適に移動できるまちをつくる」について、世田谷区は福祉に力を入れている。車いすをご利用の方、視覚障がい者、最近では外国人も増えてきているので、移動の手段だけでなく表示、点字ブロックなどを増やしてほしい。	具体的な地区としては、区役所周辺やうめとぴあはこの10年間で、周辺の駅等へ利用しやすいように障がい者、高齢者に配慮した移動に取り組んでいる。外国人の方も含めて皆さまが快適に利用できるということを新たに追加している。

開催概要

テーマ別の方針に関する意見

「テーマⅠ 安全で災害に強いまちをつくる」について、近年の水害への対応、危険度ランクが高い地域への対応に関する意見があった。

「テーマⅤ 誰もが快適に移動できるまちをつくる」について、都市計画道路の整備、細街路への対応、電動キックボードなどに関する意見があった。

その他の意見

たばこのポイ捨て、防犯、大規模敷地の取扱いなどについての意見、質問があった。



説明会の主なご意見と区の回答

ご意見（要旨）	区の回答
・ 最近では線状降水帯などがあり、7月6日には床下浸水にあった。最近の気候変動についても配慮してほしい。	・ 「安全で災害に強いまちをつくる」の中で、水害対策について触れている。グリーンインフラの考え方も生かしながら、土の部分を残していく等で浸水の抑制を図っていく。 ・ 浸水が起きやすい場所は地形等の要因もある。丁寧に伝えながら街づくりを進める。
・ 東京危険度マップ（東京都、2022年度版）にて、木造密集市街地以外の羽根木、松原などで赤くなっている。建て替えが進んでいないことが、危険度が高い理由ではないか。危険な場所に対して、建て替えを促進する補助金を作してほしい。	・ 総合危険度ランクは、東京都が町丁目ごとの危険性を相対的に評価しているものであり、建物の耐震化や不燃化、道路整備など、様々な要因で改善する指標でもある。現在、東京都が防災街づくりに関する計画の改定に取り組んでおり、その内容も踏まえながら、総合的に検証していく。
・ 補助52号線など、都市計画道路の整備は、今の交通量と照らし合わせて本当に必要なのか。既存の道路を電線地下化などを行うことで対応できるのではないか。	・ 北沢地域は細街路率が高く、消防車が入りにくい、通過交通が住宅街の中に入り込んで危険という意見も多くいただいている。事業中の都市計画道路については、しっかりと整備をしていかなければいけないと認識している。
・ 歩行者や自転車利用者の安全性と快適性を高めるとあるが、最近では電動キックボードが増えており、危険を感じる。記述の中に電動キックボードも入れてほしい。	・ 現在、区の交通に関する分野別方針である「地域公共交通計画」の改定を行っているところである。その中でも、交通違反による事故等、電動キックボードの安全性に関する指摘はあるものの、手軽な移動手段として普及している現状がある。電動キックボードの安全な利用等については、今後の課題と認識している。
・ 建て替えで幅員4mになるようにセットバックを行っても、他の建物が建て替えをしないと道は広がらない。セットバックしても電柱は現状の位置に残ってしまい通行の邪魔。災害時に倒れる危険性もある。抜本的な対応を編み出せないものか。	・ 無電柱化整備においては、地上機器の設置場所が必要となる等の課題があり、4m道路での無電柱化については、現状では非常に難しい。 ・ 細街路が多いエリアがあるが、防災の施策等と合わせて総合的な対応を図っていく。
・ 地域外の人住宅地に入り込むようになっていることから、防災だけではなく、防犯に関する記載も検討してほしい。	・ 防犯については、区民意識調査でも上位に挙げられており、大事な点だと認識している。防犯は、警察や地元コミュニティと連携して取り組んでいく必要があり、ハードというよりはソフトの取組みになると思う。 ・ 地域整備方針の中でどのように扱うかは、持ち帰り、検討させていただく。

開催概要

テーマ別の方針に関する意見

「テーマⅤ 誰もが快適に移動できるまちをつくる」について、新たなモビリティやICTの活用の具体的な取り組みイメージの説明を求める意見や、大井町線の立体化に関する質問などがあった。

アクションエリアの方針に関する意見

「奥沢駅・自由が丘駅周辺地区」について、自由が丘駅周辺の街づくりにおいて目黒区との連携強化や早期実現を求める意見や、「等々力駅・尾山台駅周辺地区」について、等々力大橋と目黒通りの交差部分の安全を求める意見などがあった。

その他の意見

空き家対策に関する意見などがあった。



説明会の主なご意見と区の回答

ご意見（要旨）	区の回答
「テーマⅤ 誰もが快適に移動できるまちをつくる」の【快適で利用しやすい交通環境の整備を進める】に記載されている「新たなモビリティの普及」「ICT」について、具体的に説明してほしい。	「新たなモビリティ」は、オンデマンドバスやグリーンスローモビリティなどの活用による快適で利用しやすい交通環境の整備を、「ICT」（情報通信技術）は、AIの活用や自動運転化を想定して記載している。いずれも特定の施策は決まっておらず、南北交通の手段の不足の解決を視野に入れた方針として記載している。
過去に等々力駅の地下化が話題になったが、現在も大井町線の立体化を推進する方針は残っているのか。	平成16年に東京都により策定された「踏切対策基本計画」では、大井町線は緑ヶ丘駅から等々力駅までが立体化の検討対象区間となっている。東京都としても自由が丘をはじめとする大井町線の開かずの踏切を問題視しており、踏切解消について現在も検討されている。
- 目黒区側の自由が丘駅周辺では再開発が進み始めているが、素案では、「生活利便施設の集積や建築物の壁面後退」程度しか記載されていない。隣接する区の動きも含め今後10年間の考え方を整理すべきではないか。 - 目黒区、東京都、東急電鉄と意見交換を進めるとの事であるが、なるべく早く進めていただきたい。周辺住民への周知もお願いしたい。	- 現在、目黒区とともに連立立体交差事業の街づくりに向けた打合せや調査などを実施している。東京都のグランドデザインを念頭に置きつつ、街づくりを進めていきたい。 - 駅前の再開発による賑わいのしみ出しがあると期待する一方、住環境を大切にされている地域である。今後、絞った範囲でまちづくりの方向性を示すことを検討していきたい。
等々力大橋の整備にあたっては、多摩堤通りとの交差部分の安全性に配慮してほしい。現在は信号がないため、車が目黒通りから交通量の多い多摩堤通りへ出る際は、タイミングを見計らって出なくてはならない状況である。	等々力大橋は東京都が中心となって整備しているところで、目黒通りは多摩堤通りの高さまで上がり、多摩堤通りと同じレベルで平面交差する予定である。
空き家対策の方針が記載されておらず対応策がはっきりしない。空き家対策に本気で取り組んでいただきたい。	空き家対策については、世田谷区全体の方針を記載している「都市整備の基本方針」で記載している。区では、防災街づくり担当部 建築安全課が、「世田谷区空家等対策計画」に基づき対策に取り組んでいる。

開催概要

テーマ別の方針に関する意見

「テーマⅠ 安全で災害に強いまちをつくる」について、道路整備の遅れを懸念する声がある一方、都市計画道路の計画を見直しを求める意見などがあった。

アクションエリアの方針に関する意見

「祖師ヶ谷大蔵駅周辺地区」について、防災性向上のために祖師谷通りの拡幅を望む意見と、むやみに道路拡幅をせず商店街の良さを大切にすべきといった意見などがあった。

その他の意見

部署を超えた区民への包括的な情報提供や、柔軟な計画づくりに関する要望があった。



説明会の主なご意見と区の回答

ご意見（要旨）	区の回答
・祖師谷一丁目地区、祖師谷五・六丁目地区をアクションエリアに位置づけるとのことだが、祖師谷三・四丁目も同じような環境だと思う。選定した考え方について聞く。	・祖師谷一丁目地区、祖師谷五・六丁目地区は、「地震による総合危険度判定」や「不燃領域率」などの災害や延焼の危険度が他の地区より高くなっていることから、この先10年間で優先的に街づくりに取り組むアクションエリアに位置づけている。
・祖師谷二丁目の団地の建替えて、9階建ての建物が計画されているが、はしご車が入るような道路幅員が確保されているのか。また、祖師谷通り沿いでも工事が行われているが、祖師谷通りは一方通行となっている。道路拡幅をもっとすべきではないか。	・砧地域は、道路率が5地域で最も低く、都市計画道路の整備率も低い状況で、基盤が十分に整っていない現状にある。特に祖師谷地区については、地区計画等による道路拡幅のほか、主要生活道路や都市計画道路の整備について、地区の課題として関係所管とも共有する。
・祖師谷地区などで空き家が増えているように感じる。空き家と防災の問題は関係性があると思うが、区としてどのように考えているのか。	・空き家については、火事や倒壊の危険性など様々不安の声があることは認識している。また、相続や所有者不明など課題が多いが、「せたがや空き家活用ナビ」など民間主体と連携し様々な取り組みを行っている。
・船橋地区には地区街づくり計画があり、「通過交通を入れない街づくりをめざす」としている。当該地区に計画されている都市計画道路は、地区街づくり計画に反している。	・都市計画道路は都市の骨格となるものであり、防災性、交通機能、物流、ライフライン整備など様々な観点から重要なものだとして認識している。千歳船橋駅周辺地区地区街づくり計画の計画図には、都市計画道路も記載されている。地区街づくり計画は、策定以前にある都市計画とは整合を図りながら策定されていると考えている。
・砧地域の目標として災害に強い街づくりを謳っている。地震も多く、水害なども激甚化しており、区民の命を守る取り組みが最重要なはず。復興まちづくりが記載されているが、「火事で焼けたら道路を広くする」というように受け取られてしまう。	・命を守る取り組みが大事というのは当然のことであるが、ハード整備には時間がかかる中、実現までの期間に応じた防災対策と復興まちづくりに関し、記載が不足し誤解を与えていることが分かった。追記が必要か検討する。
・道路整備は、用地取得の状況で閉鎖管理となる期間が長くなり、ウォークブルでもグリーンインフラでもない。暫定活用など創造的な街づくりに取り組んでほしい。	・花壇づくりやベンチを設置するなど、暫定利用を図っているところはある。行政だけでは管理が困難な面もあるので、地域の方々の力を借りながら活用できれば良いと考えている。
・昭和20年代の都市計画道路がいまだ整備されず残っている。道路整備よりスタンバイパイプの設置など初期消火に役立つものを設置するような考えに改められないか。	・建物の耐火性能を高めるなど、様々な視点から防火性を上げていく必要はあるが、都市計画道路などの道路整備は遅れており、引き続き取り組む必要性があると考えている。

開催概要

テーマ別の方針に関する意見

「テーマⅠ 安全で災害に強いまちをつくる」について、災害対策視点での道路整備や公園づくり、道路計画に関する住民意見を聞く場の設置などへの意見、「テーマⅤ 誰もが快適に移動できるまちをつくる」について、放置自転車をなくし、子ども、高齢者も安心して歩ける街づくりなどを求める意見があった。

アクションエリアの方針に関する意見

「千歳烏山駅周辺地区」における、暮らしやすいまちへの要望や、京王線の高架化、再開発の取組みに関する質問などがあった。

その他の意見

地域整備方針（後期）策定にあたり、事業を実施する上での費用対効果の重要性に関する意見や、地域の人口推移などの基礎データをどのように踏まえているかなどの質問があった。



説明会の主なご意見と区の回答

ご意見（要旨）	区の回答
・事業を進める上では、費用対効果が重要だと思う。計画策定にあたり、烏山地域の人口などをどのように踏まえているかを教えて頂きたい。近年、近隣の小学生の人数は増えている気がしている。	・世田谷区将来人口推計をもとに、令和24年をピークに人口が減少に転じ、年少人口は今後10年間で減少傾向という少子高齢化・人口減少時代を見据えている。素案では、例えばウォーカブル、子育てなどの視点も踏まえて策定をしている。
・防災について、電柱が倒れてしまうと緊急車両が通れない、避難経路の邪魔になることがある。途中まで電柱地中化している路線も、その先で電柱が残っている部分もあるので防災面を考えて無電柱化していただきたい。	・区では、優先的に無電柱化を図る路線を選定し、計画的に事業を進めている。無電柱化の推進を含めた街づくりについて、頂いた意見も踏まえ、所管課と共に進めていきたい。
・世田谷区民意識調査2024で、日常生活の困りごとは「道路が狭い」が一番である。テーマ別方針は、5つのテーマのうち優先順位などをつけて取り組むのか。	・5つのテーマに優先順位という考えはなく、地域全体の街づくりのテーマとして考えている。その中で重視する点については、アクションエリアごとに設定している。
・道路事業について、都市計画道路の整備に関しては、住民の意見を聞きながら丁寧に進めていただきたい。様々な立場や意見があるのは承知しているが、住民からの意見を吸い上げる場を設けていただけると大変ありがたい。	・今後も地域の皆様の意見を反映できるよう、意見を聞く機会を設けながら街づくりを進めていきたい。
・「雨水の流出抑制施設の設置を進めます」とあるが、東京都が地下に設置する大規模な貯留施設と同様のものを考えているのか。具体的な施策のレベル感、規模感、個所数などお伺いしたい。	・大規模な貯留施設を設置する計画ではなく、道路を雨水が浸透しやすい舗装に順次更新していくことや、公有地・民有地の敷地内に降った雨を道路に流さず、敷地の中で浸透・貯留させていくルールを設けて、建物建て替えの際に確認することを考えている。
・千歳烏山駅周辺について、駅周辺を暮らしやすいまちにしたい。放置自転車をなくし、子ども、高齢者も安心して歩ける道路を整備していただきたい。	・放置自転車は昔と比べると減っていると認識しているが、引き続き、地元商店街や地域住民と協力し、マナー啓発等にも取り組んでいきたい。また、鉄道の高架化や都市計画道路の整備、駅南側の再開発の検討など、将来を見据えた駅周辺の街づくりに取り組んでいきたい。